



Fig.3-9 地元農家との収穫作業の様子



Fig.3-10 高齢者施設のクリスマス会でお菓子を
提供している様子

2つ目の事業は「カンボジアの子ども達に栄養価の高いお菓子を届ける事業」である。カンボジアで現地の子ども達の栄養改善を目的として活動を行っている NPO 法人「NOM POPOK」を紹介して頂き、カンボジアの栄養課題を学んだ上でお菓子のレシピを検討し、現地の子ども達にお菓子を提供する事業である。

第1回目の事業として、まず、オンラインで現地の NPO の方からカンボジアの栄養課題について講義を行っていただいた。その後、栄養課題を解決できるようなお菓子のレシピを高等専修学校の生徒達がグループで検討した。試作を重ね、オンラインで現地の NPO の方々にレシピのプレゼンテーションを行った (Fig.3-11)。その後改良を加えて決定したレシピを現地 NPO に送り、現地でレシピに基づいてお菓子を製造して、カンボジアの小学校の生徒 400 名に提供した。お菓子を食べた生徒にはアンケートに協力してもらい、生徒達が考えたお菓子の評価を確認した。

現地の小学生の評価は概ね良好であった。改善点や要望も聞くことができた。事業に参画した生徒からは、「国境を越えて自分たちが考えたお菓子をカンボジアの子ども達に食べてもらえたことに感動した」、「栄養課題を考えて作るという貴重な体験をすることができた」、「課題を解決するためにみんなで話し合っ試作するのが楽しかった」といった感想が聞かれた。一方で、「レシピを送るだけではなく、日本で自分たちが作ったお菓子をカンボジアの子ども達に送って食べてほしい」という声も多数聞かれた。



Fig.3-11 レシピを検討してプレゼンテーション
を行っている様子



Fig.3-12 現地の学校でお菓子を提供した時
の様子

そこで第2回目の事業として、安城生活福祉高等専修学校のパティシエ専攻の生徒が作ったお菓子を空輸して提供する事業へと発展させた。

再度オンライン会議によって、提供するお菓子を検討した。日本で製造してから現地の小学校でお菓子を提供するまでに時間がかかるため、保存できる期間が長いお菓子で検討を進め、大豆バーとかりんとうを提供するに